

## 会議録（概要）

会議の名称	令和7年度 第3回佐渡市デジタル活用推進検討懇談会
開催日時	令和7年10月31日（金） 10:00～11:45
場所	佐渡市役所本庁舎2階 大会議室
会議内容	<p>1 開会 2 座長あいさつ 3 議事 4 副座長あいさつ 5 閉会</p> <p>1) 「2031年の先の佐渡市への提言」のまとめに向けて 2) その他（次年度以降の懇談会、次回日程）</p>
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>«デジタル活用推進検討懇談委員» (6名) «市役所» (2名) ・佐渡市総務部総務課デジタル政策主幹 吉原 文啓 デジタル広報室長 植 俊介</p>
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	なし

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
座長	<p>1 開会</p> <p>2 座長あいさつ</p> <p>　　今年度の懇談会もあと2回ほどとなるが、このメンバーで何か面白い提言だと意味のある提言だとかを作る作業も最終段階になりつつある。</p> <p>　　本日は、大きく2つの検討事項があるが活発なご意見をよろしくお願ひしたい。</p>
椎室長	<p>早速議事に入らせていただきたい。</p> <p>　　ここからは議事の進行を座長にお願いする。</p>
座長	<p>本日は議事が2つある。</p> <p>　　1つは、前回からのA委員の提案を受けて進めようとしている、佐渡市に対してもう少し夢を描くといふか、「そんなことが実際に実現できるといいよね」という提案について議論している内容となる。</p> <p>　　そこをもう少し深掘りしたいと思い、まずは前回からの流れを事務局から説明いただき、おさらいしたい。</p>
椎室長	<p>3 議事</p> <p>1) 「2031年の先の佐渡市への提言」のまとめに向けて</p> <p>　　アジェンダP.5をご参照いただきたい。</p> <p>　　こちらは2031年以降の佐渡市に対し、何か夢のあるわくわくするようなことを提言していこうということでA委員からご提案いただいた資料を原案という形でお示ししている。</p> <p>　　2部構成となっているが、基本的にはデジタル活用の加速化のためのサイバー空間とのコラボレーションデザインや、市民との新しい考え方の共創プラットフォームデザインについてのご提案である。</p> <p>　　前回は先進地である長岡市の山古志地区での取組について、NFTの活用やDAO（分散型自立組織）の活用事例についてお話をあった。</p> <p>　　副座長からも、これらを活用しながら人やお金、知識などを佐渡市へ持ってくるような仕組みを作れたらよいのではとのご意見をいただいた。</p> <p>　　それから、アジェンダP.7～8については皆さまへのインプット情報となるが、提言にあたって活用すべきという<u>「ふるさと住民登録制度」の概要</u>について総務省の資料を掲載している。</p> <p>　　また、地方自治体の専門紙である「自治日報」においても、「ふるさと住民登録制度」や社会課題解決に繋げるためのメタバース導入の手引きが作成されたことについて掲載されている。</p> <p>　　さらに、直近では「ふるさと住民登録制度」のプラットフォームについて、国が作る共通システムの候補に挙がっているとの記事も掲載されている。</p> <p>　　これらの取組には公的な資金を投入すると思うが、それよりもメリットが上回るということか。</p> <p>　　かつて自治体に体力があった時は、自治体が負担をしてでも「民間のために」という考え方があったと思うが、今は財政状況も含めて自治体が大変な状況である。</p>
座長	<p>　　おっしゃるとおり、自治体は赤字施設の運営などを当たり前に担ってきたと思うが、今はそうもいかない。</p> <p>　　アジェンダP.9の資料については、ご提案の内容を1枚に落とし込んでいる。</p>
座長	<p>　　プラットフォームについては、「さどまる俱楽部」の活用や国が作るプラットフォームを使うことが考えられるが、「ふるさと住民登録制度」を活用し、佐渡の魅力や課題を情報発信し、そこからアイディアや資</p>
椎室長	

	<p>金、マンパワーといったものを佐渡に呼び込むイメージである。</p> <p>そして「ローカルなファクターコミュニティ」の形成に繋げたい考えであるが、やはりコミュニティの場といふものの形成がないと、継続や仲間づくりに繋げることは難しいと感じている。</p> <p>また、色々な切り口や分野で佐渡に貢献したいという方がいると思うが、それらを包含できるようなコミュニティが必要なのではないかと感じたところである。</p> <p>色々なところに情報発信はしていくが、既に会員数が6万人いるような「さどまる俱楽部」を使わない手はないし、Facebookにある「佐渡ヶ島大好き!!」という7~8千人のコミュニティに向けて情報発信をしてもよいのではないかと、前回までにそのようなご意見があり、簡単にまとめさせていただいた。</p> <p>皆さまへの情報のインプットは以上である。</p> <p>あとはこれをどのようにしてまとめていくのかについて議論したいと考えている。</p> <p>まずご質問やご意見等はあるか。</p> <p>「さどまる俱楽部」のデータは抽出可能ということでよいか。</p> <p>抽出は不明だが、会員に向けた情報配信は可能である。</p> <p>これから新しく、例えばメタバースを構築しようという時に、パラレルに管理システムを動かしているのは無駄なので、例えば「さどまる俱楽部」という名称を残すとしても、先ほどのガバメントクラウドのプラットフォームに統合し、そこを中心に色々なものが繋がっていくような形にするのか、いずれにしても「さどまる俱楽部」というデータをまずメインで使わない手はないので、それを今のアプリからちゃんと抽出できるようになっているのか確認していただきたい。</p> <p>承知した。</p> <p>「ふるさと住民アプリ」はこれから開発されるという認識でよいか。</p> <p>そのとおりである。</p> <p>費用も分からないのか。</p> <p>今は分からない。</p> <p>この制度を設計している総務省の人間と山古志の人が打ち合わせる機会があつて色々と聞いてい</p>
座長	
副座長	
椎室長	
副座長	
椎室長	
副座長	
副座長	
椎室長	
副座長	
椎室長	
副座長	
A委員	
椎室長	

A委員	<p>山古志の技術を使いたいのは、それがN対Nだからである。</p> <p>その中でコミュニケーションを取っている。</p> <p>もちろん山古志の住民代表の人たちがファシリテートはするが、基本的に1,800人（登録した人たちの10%）くらいは元気な人たちがいるので、その人たちが「こうしよう」「ああしよう」「こんなのあるよ」とかやっている。</p> <p>そして山古志の住民が「雪下ろししてほしい」というような要望を流すと、1,800人が勝手にやり始める。</p> <p>そのDAOの姿を「さどまる俱楽部」は一皮剥けないと、1対Nで普通に広報しているだけでは本来のコミュニティの姿にはなっていないのかなと思う。</p>
椎室長	<p>今の使い方だと、「この制度に登録しませんか」と投げかける場が「さどまる俱楽部」というイメージに過ぎない感じである。</p>
A委員	<p>そのとおりである。</p> <p>よって生かすか殺すかは市町村しだいであるが、山古志のDAOは生かした方がよいと思うので、今は長岡市と「先手先手を打ちましょう」という話をしている。</p> <p>佐渡市であれば「さどまる俱楽部」がものすごい人数なので、どんどん活用して、その母体を生かした形で何ができるのかを考えた方がよいのではないかと思うし、必要であれば総務省を説得する。</p> <p>アジェンダP.8の資料のとおり、スタートは2つある。</p> <p>まずは興味を持ってもらうということで「地域経済活性化」の体でスタートするようである。</p> <p>「地域の担い手確保」はそのあとである。</p> <p>まずは、単純に登録してもらうだけで、「地域の担い手確保」はふるさと納税を使うか何を使うかは別だが少しお金を出してもらう。</p> <p>いきなり登録料を取ると反発があるので、まずは興味を持ってくれる人がどのくらいいるのかを調べるためにも、まずは登録だけをしてもらうということである。</p>
副座長	<p>そうすると、NFTを使った事実上の参加費ということも考えられるということか。</p>
A委員	<p>そのとおりである。</p> <p>ふるさと納税の返礼品に代わるもののが山古志ではNFTの錦鯉のデジタルイメージである。</p>
座長	<p>せっかくコミュニティを作っても、特に今の「さどまる俱楽部」のように、情報発信の主体が佐渡市というような形にしてしまうと、常に新しい情報を集めて発信していくためのマンパワーをすごく要してしまうので、誰でも発言できて、「人手が足りない」「こういう課題がある」という意見が挙がってくるような仕組みを作らないと駄目ではないか。</p>
A委員	<p>佐渡市は今、ふるさと納税による寄付金額はいくらいか。</p>
椎室長	<p>寄附金全体の総額は9月末現在で約5.5億円。昨年度よりも2.6億円ほど多い。</p>
A委員	<p>返戻金を差し引いた純利益については自治体が使えると思うが、それを地域活性などに生かしているパターンは結構多いようである。</p> <p>人口減少対策のために使えるようにメニュー化している例があると思うが、そういうと政策に対する原資になる訳である。</p> <p>ただ、半永久的にずっと使える訳ではないので、最近世田谷区などは事業の立ち上げのための原資にふるさと納税を充て、事業を持続させるための経費についてはクラウドファンディングを充てているようである。</p> <p>そのような形で、世田谷区では地域課題を解決し活性化するための事業支援に対応しているようである。</p>

椎室長	佐渡市も寄付金の活用メニューが用意されており、寄附を納税する時にコースを選んでもらうようになっている。 ただ、政策に充てる側からするとあまり使い勝手はよろしくないというお話はよく耳にする。
A委員	どこの自治体も一緒だが、せっかくある純利益の広範的な利用ができていなかつたり、付け焼き刃的に使つたりしているケースが多いようである。
副座長	ファシリテーターが重要だということで、ファシリテーター役は佐渡であれば誰が担うのか。 精神的ストレスを受けながら、恐らく対価もほぼないというような状況で続ける必要があると思う。
A委員	山古志にはそういう方がいらっしゃるのだとイメージするが、多分それがあればうまくいくのではないか。 NFTに興味のある人は多分世界の中で10%はいないと思うが、それなりに存在する訳であるから、「何でもいいからNFTを買っちゃおう」という人もいるし、多分、初めから山古志に興味がある人ばかりではないと思う。 「デジタルイメージの錦鯉が面白そう」「アニメとはちょっと違う」というような感じ方でNFTを購入していると思うが、皆さん売却しないようである。 だからその手数料収入が山古志には入らず山古志の人は困っていたが、それらの人が徐々に「山古志ラブ」になっているらしいのである。 そして皆さんが少しずつ山古志に来るようになったと。 恐らく関係人口のフェーズがたくさんあって、単純に首都圏の主婦層からすると、「おけさ柿が欲しい」「朱鷺認証米が欲しい」など要望は色々あると思うが、行くまでもないけど返礼品が欲しい人とか、「世界遺産だからちょっと行ってみたい」という人とか、そういうような人たちには何かフェーズがあるのかなと思う。 それが移住とか二拠点住居というようなところに行き着くまでにはずっとそのフェーズがあるので、そういうところをしっかりとAIを使ってアテンションとリテンションをしていくような、そのような仕組みが必要なのではないかと思う。
副座長	山古志では、ファシリテーターなどに関しての属人的な部分は解決の目途は立っているのか。
A委員	アメリカが結構多いらしく、全世界の人がそのコミュニティに入っている。 Discordのようなコミュニケーションツールを使用しているので、変なこと言ったり、日本人同士であつたりしても喧嘩を始めることが多いようである。
副座長	よって、そういうところにはしっかりと仲裁役が入るそうである。
副座長	属人的なところに関して、例えばAIが代替するといったことは可能なのではないか。 そういう解決策を模索しているのではないかと思う。
副座長	それは可能と思う。
椎室長	山古志のファシリテーターは自治体の方が担っているのか。
A委員	自治体ではなく、山古志住民会議の方が担っている。 長岡市は合併して非常に大きくなつたが、山間部は山古志地区だけではない。 山古志が世界的に有名になつてしまつたが、そのあたりは長岡市も他の地区とのバランスを大事にしている。
副座長	よって、山古志支所の方と住民会議の人があたりをうまく回している。
座長	そのあたりは座長の研究分野もあると思うが、何か連携を組むというようなことはできないのか。 人がいれば何かしら考えられるのかもしれない。
副座長	ありとあらゆる議題が挙がつてくる。 勝手に議論が始まつて勝手に喧嘩も始まり炎上もする。

座長 副座長	<p>そのプロセスを客観的に解決に導くためには、大学院生が2人くらいいればよいのかもしれない。</p> <p>コストや属人化の問題もある。</p> <p>ものすごい人がいたとしても、その人がいなくなったら終わってしまうというのが最も怖い。</p> <p>DAOは3年くらい前にものすごく注目されていた。</p> <p>IT業界の中で、「何だったら会社の経営をDAOでやろうぜ」というような例があったが、スタートしてみんな潰れた。</p> <p>大抵の原因は喧嘩である。</p> <p>問題なのは、喧嘩が起こることが最初から分かっていたけど、それを仲裁できるような人が心を病んでしまい、キーマンがいなくなるともう自然消滅である。</p> <p>会社経営に関しては完全に向いていないが、地域のコミュニケーション作りには全然生かせると思っているので、山古志の例は素晴らしい成功例だと思う。</p> <p>しかし、恐らくキーとなるのはDAOというシステムを作るお金よりはファシリテーターだと思う。</p> <p>大学院生が何名かいればできると思う。</p> <p>もう1点皆さまへの情報共有である。</p>
座長 椎室長	<p>佐渡市では5月に<a href="#">「佐渡市特定居住促進計画」</a>を策定し公表しており、懇談会で提言しようとしている内容の一部について、「人口減少対策や担い手確保の重点施策として、新たに二地域居住等の促進に取り組む」としている。</p> <p>特定居住促進区域は佐渡市の都市計画区域に限定されているが、区域内の住宅や施設を活用した中で二拠点化を進めつつ、担い手の確保に対応していくというような事業内容になっている。</p> <p>それにあたっては、オブザーバーという形で協議会や支援法人を立ち上げているようであるが、<a href="#">この計画</a>の中にも、「5.施設の整備に関する事業と一体となってその効果を一層高めるために必要な事業又は事務に関する事項」というようなところに、「デジタル技術等を活用した、ふるさと住民登録制度の検討と二地域居住者を定義した有人国境離島法における航路運賃低廉化の実施」と記載されており、移住交流推進課の所管事業ではあるが、そちらサイドとしても、基本的にこのような国の制度があれば使わない手はないだろうが、今は待ちの姿勢であるというようなスタンスでいることを仄聞している。</p>
A委員	<p>これは進めて行くべき取組と思う。</p> <p>いきなりそんなに首都圏の人間がどっと来る訳ではないが、二拠点というかワーケーションというか、農業をしたい人とか体験したい人たちは少なくともいる。</p> <p>何十件も何百件もある訳ではないが、数件からこういうことを地道にやっていくことは必要だと思う。</p> <p>それから少し思ったことは、コミュニティを用意して、コミュニティを作ることを目的にすることはいかがなものかということである。</p> <p>取りあえず佐渡に来て1人で静かに生活をして、その中から何かを生んでいくというスタイルの方がもしかしたらよいのかという気持ちもある。</p> <p>予め「コミュニティがあるからどうぞ」となると、そこに入るのは面倒臭く映ると思う。</p> <p>静かに生きたいと思う人が最初に動くのではないかと思っている。</p> <p>もちろん、そこら辺の近所でのちょっとした声かけは必要だと思う。</p> <p>おっしゃるとおりかもしれない。</p>
副座長 A委員 椎室長	<p>この事業は切り売りしているのか。</p> <p>切り売りというのは、例えば1ヶ月だけ借りたいということである。</p> <p>計画の3ページ目の＜基本方針における特定居住者のイメージ＞のところに、短期、中期、長期と</p>

A委員	<p>示されているので、それぞれのコースを選択できるのではないかと思う。</p> <p>それでは、「ふるさと住民登録制度」が活発化というかスタートする時にこの事業をどんどんアピールすればよい。</p> <p>「オプションで農業体験があります」というようなものをコーディネートできると徐々に地域も密着してくるのではないか。</p>
座長	<p>移住前提のような施設が多い。</p> <p>今フランス人の大学院生を1名受け持っていて、2ヶ月滞在したいということでこのお試し住宅に申し込んだが、最終的に移住を検討する人ではないということで駄目であった。</p> <p>施設には移住を検討する人が入るから、そうすると地域は結構期待してしまう。</p> <p>世話役というのもあるが、移住しないという選択をしていなくなってしまうパターンもある。</p> <p>そうすると、世話役のショックは大きいようである。</p> <p>「何がよくなかったのか」と。</p> <p>もう少し軽やかにできるとよいのではないか。</p>
椎室長	<p>書きぶりをみると、副業、起業家、ノマドワーカー、特定の企業の社員が対象のような感じか。</p> <p>さらには島留学家族という感じか。</p>
B委員	<p>島留学家族は意外と子どもが多い。</p> <p>子どもと家族と一緒に来てくれて、それで過ごしていくようなイメージがある。</p> <p>本当に大人1人で来て勉強したいというような人はなかなかいないのではないか。</p>
副座長	<p>共同の社員寮みたいなものがあると本当は楽でよい。</p> <p>企業も各社ごとに社員寮を持っている体力はなかなかないのではないかと思う。</p>
座長	<p>看護学校の古い寮を改修して、そういう寮にするという話があると思う。</p> <p>内容が何回か変わっているはずなので、今はどういうコンセプトなのかは分からないが。</p>
副座長	<p>我が社もたくさん採用しようと思って人を呼び込もうと頑張っているが、男性寮は一軒家を買ってそこに入っているが、女性はそういう訳にはいかない。</p> <p>しっかりとした個室できちんとしたセキュリティーで守られているような環境を用意するだけの財力が零細企業にはない。</p>
B委員	<p>看護学校の寮は女性のみで男性は入れないが、以前に空き室がいくつかできた時に、我が社の市外から来ている社員を入れたいと思ったが最終的に駄目だった。</p>
副座長	<p>そういうものがあるともっと人を呼びやすいのだが、結局住むところを手配してあげなければいけない。</p>
座長	<p>結局そのフランス人は金井のシェアハウスに入れたが、月5万円で全部揃っていた。</p>
副座長	<p>そういう施設は増えていった方がよい。</p>
B委員	<p>市内の企業はどうしても給料が高くはないから5万円は結構痛いのではないか。</p>
副座長	<p>今はどうか分からないが、佐渡は意外と1人で入るアパートがない。</p>
座長	<p>家族で入るようなアパートで1人だとオーバースペックで、それで家賃は高いという状況である。</p>
副座長	<p>若者が住みたいようなアパートはかなり高く、ワンルーム4万5千円くらいからである。</p>
A委員	<p>大学の頃だったら2万1千円とか1万5千円であった。</p> <p>アジェンダP.8に福島県の取組が記載されているが、結構面白くてよいと思う。</p> <p>例えば、JRと佐渡汽船の自由席往復割引きっぷをオールインパッケージとして30万円という形ではどうか。</p> <p>確かにJALが往復航空券とホテル宿泊を自由に組み合わせられるツアー商品を提供しているが、冬のシーズンならスキーもできるので、札幌で仕事をしたいと思う人は出てくると思う。</p>

椎室長	佐渡であれば、首都圏あたりからの移動となると交通費が込みというのは魅力かもしれない。
豊田委員	他にご意見等あるか。 C委員はいかがか。 漁業はこれからマンパワーが必要になるのではないか。
C委員	漁業については高齢者が増えているので人は欲しい。
副座長	市場の魚の量が圧倒的に減っていると聞いたが、それは従事者が減少しているからということ。
C委員	従事者の減少ということももちろんあるが、やはり漁獲自体がかなり減少している。
副座長	収入も減少しているということか。
C委員	そのとおりである。
副座長	昨年が過去最低だったが、今年はそれより悪く1億円くらい低い。 何億円のうちの1億円か。
C委員	目標が15億円である。
B委員	ブリが来てくれればという思いであるがそれも分からない。
C委員	今の時期に買い物に行ってもイカもいなければサンマもない。
座長	TACにより制限されている。 小型船舶のイカ釣りの漁獲が上限となり獲れなくなった。 石巻市に <u>フィッシャーマン・ジャパン</u> という震災後にできた組織があって、外から漁業の従事者を引っ張ってきて色々な漁業のスタイルとマッチングさせている。 漁業未経験者も来るので、漁師になりたいと思っていても実際の漁師の暮らしをしたことがないため、養殖から定置から様々なパターンを用意していて丁寧にマッチングしている。 そのときに、その人たちが滞在するシェアハウスみたいなものが何軒かあって、皆さんその間はそこに滞在しながら色々な漁業体験して漁師になっていく。 新潟の人も、「昔から漁師になりたかった」と言って石巻に行って漁師になっている。
副座長	新潟でも漁師は絶対できるはずだけど、恐らくそういうマッチングの仕組みがないため、どうやってアプローチしたら漁師になれるのかが分からず石巻へ行ってしまっているようである。 漁業関係者から見て、 <u>SIIG株式会社</u> の開発した佐渡ビッグゲームの「 <u>Fishranker</u> 」アプリのようなものはどのように映っているのか。
C委員	漁業者としてはあまりよい感じは持っていない。 そもそも、現在は岸壁で釣りをしてはいけないことになっているにも関わらず、そのような形で誘致することについてはいかがなものかと思う。
副座長	もちろんすごいイベントだということは理解しているが、場所提供というか、本当は禁止されているような場所なのにそこで釣りをしていてよいのかという話は出ている。 水産庁が提携会社としてお金を出している。 水産庁は何が欲しいのかというと漁業データが欲しいのである。 どこでどの魚種がというデータについて、全部AIがアプリで大きさや詳細を把握していて、それらのデータを生かしていくということである。 それから、 <u>シマノ釣具</u> がもう提携を始めているので、佐渡市も連携して漁業をやりたい人を呼び込むことも考えられるのではないか。 もちろん、立ち入り禁止の岸壁情報があることは聞いたことがあるので、そういうことは大事だと思う。
A委員	私は粟島へ行った時に年配の方と「もしかしたら構造を変えないと駄目なのかな」という話をしていて、よいと思ったのは、どんどん引退していく高齢者の方の取り替えは無理であろう。

	<p>若い人を連れてきても皆さん素人である。</p> <p>そこで、栗島には中心となる若い人たちが5～6人いるが、そういう若い人がいるのであれば、あらゆる資源をそこに集中すべきと思う。</p> <p>そういうことを徐々に積み重ねて最終的には10～20倍にするのである。</p> <p>若い人もっと大きな船にしたいと思っているので、色々な資源を集中する。</p> <p>だからといって年配の方々は引退してよいのではなく、今度は外から来る釣り客に対して渡船業をしたらよいのではないかと。</p> <p>漁には行かないけどそういう感じでやっていくというひとつの構造的な何か少し組替えが必要ではないかと思っている。</p>
座長	<p>佐渡は定置が多いから、定置だとやはり何10人というループでやらなければならない。</p> <p>若い人もちらほらいるが、それでもこういった移住政策を何とか一次産業に繋げないと、農業もそうだが、あと10年でもう風景ががらりと変わってしまうのではないかと感じている。</p>
副座長	<p>先ほどのお話だが、外からは同じ漁業関係の話に見えて中身は釣りの振興であったり、市場の人たちからは別の角度で見えたりというところがあった。</p> <p>ただ、お互い憎しみ合っているレベルではないことも確認できたので、お互いうまく繋がっていく方がよいのではないかと思った。</p>
C委員	<p>漁師もそうであるが市場もそうで、市場のセリ人というのは専門職だが、そういう人たちの後進も育つておらず、今は定年を迎えた人2人と自分を入れた若い人が2人だけの4人でセリ人をしているが、その敷居が高いので、それを壊すためにデジタルというか、入札をどんどんオンラインで入れ込んで、そうすれば島内外からも入札できるので、価格競争で利益を上げていくということもしなければならないと思っている。</p>
座長	<p>それが実現できたらすごいことである。</p> <p>今はそこがまさに問題である。</p>
C委員	価格が下げられている。
A委員	そこにどんどん積極的に投資していくかないと人を呼び込んでも来ない。
C委員	船の上で獲れた段階で整理するのがよいのではないか。
A委員	そうすれば漁港に着いたら仕分けするだけである。
C委員	そのとおりである。
A委員	漁船の中でどれだけこういう魚が獲れたというデータをまず市場に投げてもらえば、漁港に着いた段階ですぐ鮮度よく売れる。
C委員	先行事例はあるのか。
副座長	<p>今、東北の方がタブレットを使ってやっている。</p> <p>魚種が巻き網なので佐渡とは環境が異なるが、今はそういう風なのが主流になりつつある。</p> <p>だから今、セリをして手書きで伝票を書いて請求書を作つてという工程が1時間ですべて終われば、それで職員も帰れるとなると仕事もすごく楽である。</p> <p>ただ、今も職員の中には「みっちり7時間働かないと駄目だ」みたいな人がいるので、そういった考え方やマインドを変えていかないといいけない。</p> <p>提言の中の1つのアイディアであるが、そういう時に相談する先が恐らく佐渡市内にはない。</p> <p>東京の大きな会社に相談することができても、また、例えば佐渡市がそれを用意してくれてもすごくお金を要してしまうので、何らかの相談を受けて捌くような窓口を作つてはいかがかという提言をしてもよいのではないか。</p>

座長	C委員のような方がいるから、そういう風に変えていった方がよいという思考が働くが、そういう人も限られているから声が挙がってこない。
副座長	そもそも、どうしたら便利になるのかが分からないという感じがある。 佐渡市が用意したちゃんと窓口があったら、そこに若い人たちが「これをDXで解決しないと人が足りなくてどうしようもない」というような課題をもっと集めていくためのヒアリングの場にもなる。
A委員	漁業だけでなく農業もそうである。
椎室長	今回、農協さん柿の集荷後の選別の作業にいよいよ人が足りないということで、市役所にも大量にアルバイトの募集が来ている。
B委員	柿は時間勝負なので、渋抜きをしたら1週間以内に売りさばかないと商品としては駄目になる。
A委員	一次産業をどうしていくのかである。 今回、「佐渡市デジタル活用計画」において2031年頃のありたい姿を描いたが、その中で一次産業がどれだけあるのかについては全て網羅している訳ではないと思う。 一次産業そのものをどのように未来に対して残していくのか。 「もう残さない」という考えもあるかもしれないが、そこはかなり重要なのではないか。
副座長	本当に一次産業の従事者が駆け込める場所、相談する場所を作るということと、そこに何か変な人たちが入らないようにチェックする機関が必要である。 チェック機関であれば例えば我々が担ってもよいのではないか。 「この業者は大丈夫」「この業者はちょっとご遠慮いただきたい」というような形である。 そういう変な企業は多い。 いくつかの行政機関からコンサルのオファーがあり、コンサルに入ると我々がベンダーとして入れできなくなるので嫌ではあるが、仕様書の段階で縛らざるを得ないので、徹底的に仕様書の段階でやっているがなかなか大変である。
A委員	少し変な話をして、新潟もそうだが東北の方はクマがいる。 恐らく「紅葉を見に行こう」と言った時に怖くて仕方がないと思う。 下手をすると、田んぼに行くと走り回っていたりする。 普通に米も作れないような状況にいつなっておかしくないのではないかと思ってしまう。 最悪佐渡に泳いでくるのかどうかについては瀬戸際であるが、現状いない訳である。 そうすると、「新潟の米イコール佐渡の米」になるのではないかと思った。
座長	クマだけでなく、シカもイノシシもいないから、農業としては獣害対策をしなくて済むからやりやすいはずである。
A委員	本当に東北地方は危機的状況である。 普通に田んぼ作業をしている場合ではないし山菜採りにも行けない。
副座長	今の話を聞いているとデジタルで全部を解決することはなかなか難しいので、1つは交流人口から定住人口を増やしていくということに関しては、例えばそういう仕掛け作りみたいなことだと思うし、もう1つは島内の省力化というか、一次産業のDX化みたいなところにどうやって取り組むのかという体制の提言になってくるのではないか。
A委員	おっしゃるとおり一次産業は放っておけない。
B委員	「地域」というキーワードが出てくるが、佐渡は合併して大きくなってしまって、全部公平にモノを考えなければならないような形になっているのではないかと思う。 せっかく「頑張ろう」と呼びかける地域があっても、「そう言われてもうちの地域は老人ばかりだからそんなことできない」と、地域間の公平性に縛られてしまうような場面に何度か遭遇した。

副座長	だから、若い子が「やりたい」と言ったら救ってもらえるような、そういう施策も欲しいかなと思う。 経産省系の考え方と国交省系の考え方で違うところもあるが、経産省系だと右肩下がりになっている中で、辺境の島の隅々まで全てインフラを整え人が住めるようにするのは無理があるから、「そこは農業をする場所」「そこは漁業をする場所」のようにエリア分けしていくようなゾーニングの考え方を持っている人が多いが、国交省系の人は国土強靭化という意味で島全体のパワーを上げていかなければ駄目だという考え方があるので、佐渡市がどちらを優先するのか。
座長	ただ、結局そういう人たちがいればどうにかなると思うが、まだあまりいない。
B委員	ただ、多分に、しっかり光を当ててあげようとすると出てくると思う。
A委員	「それなら」という人たちも出てくると思う。
B委員	今は光が当たっていないのではないか。
A委員	当たっていない。
座長	過疎地域か何かに認定されると特別措置を受けられる事業があったと思う。 沖縄の方でそういうことがあってクローズアップされて、そうしたら行政もコミュニティも「皆でワイワイしようぜ」という感じになっていた 先日佐渡市でも <u>令和7年度過疎地域持続的発展優良事例表彰</u> ということで、歌代田を未来へ繋いでいくための取組が総務大臣賞を受賞し注目されている。 この取組は行政支援がなくてもどんどん進んでいくものと思うが、私自身はゼロからイチを作るのが好きなので、何も起きていない集落に入っていてコミュニティデザインするタイプであるが、見ていると、何か動きが出てくると県の人がそこに乗っかかるみたいなことが結構あると思った。 でも、もっとゼロイチをたくさん作ないと駄目だなと思った。 動きがあるところは恐らく大丈夫だと思う。
椎室長	市長が盛んに支所・行政サービスセンター長に地域に入って御用聞きをするよう言っている。 しかし、結局いつも同じ方々と話をして、あそこを直して欲しいとかここを修理して欲しいとかいつも同じ課題を持ち帰って、結局予算が付かずには解決できず、また翌年も同じようなことをしている。 もっと若者だったり女性だったりと、ターゲットも変えなければいけないのではないかと思っている。 「行政に何をして欲しいのか」という感じになってしまふからそういう要望になってしまう。 どこかが直ればよいがそれで終わりである。
座長	それでコミュニティは育たないから、やはり自分たちがコミュニティをどのようにしていきたいのか、その中で行政はどういう支援ができるのかという話の場を作らなければならない。 こちらが聞く内容も、今おっしゃられたような切り口に変えていかなければならぬ。
椎室長	しかもそういう地域は未来なんか見えない状況にあるから、「どうしたらいいですか」「どんな地域にしたいですか」と最初から聞いても分かるはずもない。
座長	「もう老い先が短いから」というような状況から時間をかけて聞いていかなければならぬから、1回のヒアリングでどうこうなるものではない。
A委員	ヒアリングなど不要である。
椎室長	おにぎりでも持って行って一緒に草むしをするとか、そういうことをしていかないと駄目だと思う。
A委員	おっしゃるとおり、仕事然として出向いて行つてもそういう話までたどり着けないとと思う。 もし道を直さなければならないのだったら、7時間労働しなければならないので、3時間はそちらへ行くといったような交流も恐らくこれからは必要ではないか。
座長	人の繋がりの部分とデジタルの部分をバランスよくやっていかないと駄目だと思う。 D委員はいかがか。

D委員	<p>アナログの観点で。</p> <p>地域の観光リピーターや二地域居住の文脈で言うと、先日、離島留学生が最後に鬼太鼓を踊って帰るとか、大学生が地域に入って鬼太鼓を復活させたりとかいったプランがあって、私も鬼太鼓をしている人がどんどん減っているにも関わらず、祭りの警備には太鼓ごとに警備員を2人配置しなければならなかつたり、交通誘導員も他の地域の人に参加してもらつたりしている。</p> <p>例えば、鬼太鼓体験プランで「1週間太鼓コース」や「1ヶ月鬼コース」というものがあると、リピーターにも繋がつたりするのではないかと思う。</p> <p>今は島内に120くらいの鬼太鼓があると聞いているが、例えば島外の人が「翌年は他のところも行ってみよう」というようなリピーターになってくれると人手不足には助かるのかなと思う。</p>
A委員	<p>文化の交流である。</p> <p>非常に重要である。</p>
D委員	<p>そこにデジタルがどのように繋がるのかは分からぬが、来られない方用のオンラインのプラットフォームのようなものがあるとありがたいし、それこそ明日は国分寺市へ行って鬼太鼓を踊るが、そういう時に佐渡で鬼太鼓を体験してくれた人たちが集まるようなことができると、関係人口の増加にも繋がるのではないかと考えている。</p>
座長	<p>新大生が色々な地域の鬼太鼓の情報発信などを目的で、<a href="#">[sadondeko]</a>というサイトを立ち上げている。</p>
D委員	<p>ホテルなどにもよく定期公演で行っているが、講演終了後にすごく色々と話しかけてもらえる。</p>
座長	<p>先日銀座で子どもたちが鬼太鼓を披露したが、やはり外の人にとってはすごい反響がある。</p>
A委員	<p>首都圏にはそういう刺激やカルチャーは必要である。</p>
B委員	<p>もう子どもたちはYoutubeしか観ない。</p>
A委員	<p>体感できるものを大切にしなければならない。</p>
座長	<p>ただ、地元の子どもはあまり来ない。</p>
D委員	<p>小学校3年生くらいまでは来るが、中学生になるともう誰も来なくならないか。</p>
座長	<p>子鬼を卒業した子たちは結構来る。</p>
B委員	<p>部活動を何に入るかによって変わってくるが、ただ祭りの日だけは来てくれたりする。</p>
座長	<p>中学校に入ったら誰も来てくれなくなった。</p>
	<p>私の地域の鬼太鼓は鬼が皆子どもなので、大学生くらいになっても祭りの日には帰つて来る。</p>
	<p>女性は練習も見に行つてはいけないという地域もあるから、結構センシティブである。</p>
	<p>そういう背景もちゃんと調べて、鬼太鼓のNFTを作つてそれを販売してアプリ開発に繋げるというが、先ほどの「<a href="#">[sadondeko]</a>」の取組であった。</p>
	<p>それが鷺崎の取組である。</p>
	<p>「鷺崎だけでなく、全部で120ある」という話はしたが、1回鷺崎に入るともう鷺崎一色になつてゐる。</p>
	<p>ただ、目指しているのは他の色々な地区を回ることであると思う。</p>
	<p>さて、色々な意見は出たが、アジェンダP.9に示す「ローカルなアクターコミュニティ」を作る意味みたいなものが、お金とかマンパワーを獲得するためというような書き方だったと思うが、そうではなくてもう少し具体的に出てきた意見が、交流人口から定住人口へシフトしていくような人の獲得だつたり、一次産業を支えていくために、そういうコミュニティを使えないかということだったと思う。</p>
	<p>あとは、登録データに沿つたコミュニティができたとしても、それがきちんとコミュニティとして機能していく</p>

	<p>ためのプラットフォームづくりと、そのファシリテーションが課題であるということだと思う。</p> <p>「メタバース等を活用した広域コミュニティ」というところが炎上することもあるし、そこで語られていることがリアルな課題ときちんと結びついていくことや、或いは島民の側から色々な情報がそこに流れていって、市役所が管理するのではなくコミュニティのようなものを作っていくためにはどうしたらよいのかというところである。</p> <p>ちなみに、広域コミュニティの中は島内の人も自由に入り出しができるようなイメージか。</p> <p>山古志では最初は入れていなかったが、誰かが「もっと地域の人と触れ合いたい」と言ったところから、地域の人はNFTを買わなくてもデジタル住民として登録でき、交流ができるようになった。</p> <p>一次産業もゆくゆくは「〇〇体験」という風に観光になる訳なので、はやり一次産業をベースに交流人口や関係人口を増やし、魅力のある佐渡みたいなものをもっともっと発信するという意味で島内の一次産業従事者の人たちもその中にちゃんといるという感じにしておくと、地域の人たちも自ずとそのコミュニティに入って行けるのではないかと思う。</p>
B委員	<p>「さどまる倶楽部」は市民にとっては意味がないものになっている。</p> <p>現状は、観光客などに「『さどまる倶楽部』に入っている」と言われても「そうですか」としか言えない。それを発展させるような形で市民も参加できるような話になってくれるとよいのではないか。</p>
椎室長	<p>今回と第2回の懇談会の議論を1回まとめて、提言案という形にして皆さんにお示しして揉んでもらいたいと思うがいかがか。</p>
座長	<p>「ふるさと住民登録制度」は新年度にスタートか。</p> <p>来年度から施行するために、制度設計を1月の後半頃に閣議決定するようである。</p>
A委員	<p>来年度のランニング費用も補正予算でそのときに載せるらしいので、1月には明確に出てくるのではないか。</p>
座長	<p>準備をしておかないと出てきた時にすぐに動けないのではないか。</p> <p>例えば、来年度の夏頃にそういったコミュニティ形成の動きを出すために何かを具体的に見据えておかなければ、制度が始まってふるさと住民の登録データが届いても対応ができなくなってしまう。</p>
A委員	<p>総務省の担当者に今の状況を確認する。</p>
椎室長	<p>今実施している二地域居住の促進に取り組む事業も国交省絡みで、トップランナーとしての実証のような意味合いがあると聞いている。</p>
B委員	<p>そのネタをぶら下げる地域を回った方がよいのではないか。</p>
椎室長	<p>そのとおりである。</p>
A委員	<p>この二地域居住の促進に取り組む事業の所管課はどこか。</p>
椎室長	<p>地域振興部の移住交流推進課である。</p>
座長	<p>それでは最初の議題はここまでとする。</p>
	<p>2) その他（次年度以降の懇談会、次回日程）</p>
座長	<p>それでは、「その他」ということであるが次年度以降の懇談会について事務局より説明を求める。</p>
椎室長	<p>次年度以降の懇談会と次回の日程について説明する。</p> <p>現在、令和8年度の予算要求の時期に差し掛かっているが、当懇談会については立ち上げから丸4年を迎え、大半の皆さまには2期に渡って活動いただいた。</p> <p>この間、当初の目的であった「佐渡市デジタル活用構想」や計画の策定を進めるとともに、計画の進捗管理の内容についても活発に議論いただき、今年度の第1回の懇談会では関係課によるプレ</p>

	<p>ゼンとヒアリングも実施させていただいた。</p> <p>現在は来年度以降に向けて提言を取りまとめている状況であるが、懇談会の一定の役割というものはしっかりと果して来たと考えており、次年度以降はこれまで同様の予算計上については想定していない。</p> <p>来年度以降、皆さんには個別にご相談させていただくなどの形で引き続き関わらせていただきたいと考えているが、懇談会という形でテーマを持って定期的に開催することは想定していない。</p> <p>そうした時に、残すべき機能というようなものがあればお聞かせいただければと思う。</p> <p>懇談会の中で、計画のPDCAを誰がチェックし確認していくのかについては、検討というか論点として挙がっていたと思うが、もしこの懇談会がこういう形ではなくなったとしても、この機能をきちんとしっかりと残しておかないと、佐渡市のデジタル政策における今後の懸念点などを抽出しておけたらと思うがいかがか。</p>
座長	<p>2点ほど。</p> <p>恐らく難しいは思うが、基本的には提言をしっぱなしで終わりという訳にもいかないので、その提言をした以上それがどこまで進んでいくのかみたいなものに関しては、年に1回でもよいのでこのメンバーが集まってヒアリングするような場を設けたいという思いがある。</p> <p>これについては、新年度予算要求しないのであれば有志のような形になってしまうと思うが、提言後の進捗についてというところである。</p> <p>もう1点は、行政が悪いという意味ではなく、何か他の地域でやったことを模すというのが基本的に発想として多いというイメージを持っていて、新しいものをゼロイチで生み出すという感覚はそんなに得意ではないのかなって思っている。</p> <p>そんな時に、この懇談会に向けて情報収集し、そして懇談会においても情報収集をするというような部分は今まであったのではないかと思うが、それがなくなったということによって、例えば情報収集のパワーが多少弱まるとかそういうことがないように、組織の中の決め事みたいなものをしてもらえればと思う。</p> <p>「懇談会はないが情報収集は月1回やりますよ」とか、「それは佐渡市役所の中でも誰に報告しますよ」とか、「誰がそれを監督しますよ」とか、そういうことである。</p> <p>デジタルについて技術の進歩がすごく速いので、今の状況においてずっとキャッチアップしながら、少し先を考えていくというような形は大事である。</p>
副座長	<p>佐渡市にはデジタル分野のアドバイザーはいないのか。</p>
椎室長	<p>今はいない。</p>
座長	<p>それを提言として1つ含めてもいいのではないか。</p>
副座長	<p>よいと思う。</p>
	<p>起業・交流促進は佐渡市もずっと別途力をかけてきたと同じように、デジタルについても作ったらよいのではないか。</p>
椎室長	<p>今は外部人材という形でデジタル政策主幹に来ていただいているが、この体制がいつまで続くのか分からないので、そういう時にアドバイザーにはいていただきたいと思う。</p>
A委員	<p>壁打ちされる人は結構重要である。</p>
副座長	<p>すぐに意見を聞ける環境が重要である。</p> <p>そういう役職を持っていると佐渡市も相談しやすいと思う。</p> <p>肩書があるということで情報漏えいみたいなことにならないという意味でも大きいのではないか。</p> <p>第三者に勝手に相談したら「情報漏えいだ」というような話になりかねない訳である。</p>

	<p>だから起業・交流促進アドバイザーが別途存在しているのであれば、デジタルアドバイザーまたはDXアドバイザーというような形であればよいのではないか。</p> <p>欲を言えば皆さんに色々な肩書を持っていただいて、懇談会という形がなくても定期的に集まれるようなことができるといいが、例えば現地に来ていただかなくとも、リモート開催であれば場所や時間も問わずに色々な方法を考えられると思うので、可能な範囲で皆さんには引き続きご協力をいただければと思う。</p>
A委員	<p>懇談会の肩書やスタイルではなくてもよいが、「佐渡市がどう外部人材をうまく活用するのか」というところにかかるて来ているかもしれない。</p>
座長	<p>どの政策もそうだが、委員みたいな形の人には意見を聞けない状態だとやはりすごく固定化されているなど。</p> <p>委員の側も、更新しないと失礼にあたると思うから取りあえず更新前提で引き受ける。</p> <p>生物多様性の方でももう少し開かれたプラットフォームとして、フォーラム的なものを開催していかなければならないということで、取りあえず戦略づくりを<u>佐渡島自然共生ラボ</u>の方のプロジェクトのように位置づけて、もう少し機動的に色々な人を巻き込めるようにした。</p> <p>そういう風にあまり固定化されないようにして、誰でも参加できるようなメンバーも必要だと思うので、そういうものを柔軟に作って欲しいなと思う。</p>
椎室長	<p>もう少し自由に開かれた感じで懇親会を開くような感覚でできればよいとは思う。</p>
A委員	<p>基礎自治体がそういうことをどんどんやろうとしても、はやりボランティアベースだと思う。</p> <p>そこに一々対価を払うのは難しいので我々もボランティアベースで出て行くが、そういうことが結構注目される。</p> <p>そうすると、逆に今度は国の方が「その取組を教えてほしい」と言って来るので、そういう流れをどんどんたくさん作っていった方がよいのではないか。</p> <p>基礎自治体はもう少し自由に伸び伸びしてよいのではないかという感じがする。</p>
座長	<p>他にご意見等あるか。</p>
椎室長	<p>副座長からいただいたご意見2点については、やり方も含めて考えさせていただきたい。</p> <p>次回の日程について、当初は今回の懇談会で提言をまとめ、次回は市長に提言するという流れを想定していたが、もう1回ほど挟ませてもらいたい。</p>
座長	<p>次回は1月頃という想定でいるが、一旦事務局で素案を作り皆さんにお送りしてご意見をいただき、それをさらにまとめたものを次回の懇談会で最終決定できればよいと思う。</p> <p>今ほどの事務局からの説明にご意見等あるか。</p> <p>なければ、最後に副座長よりご挨拶をお願いする。</p>
	<h4>4 副座長あいさつ</h4>
副座長	<p>もう既に座長もまとめてくれているが、テーマもいくつか出てきたし、提言も大体見えて来たのではないかと思う。</p> <p>次回にそれをまとめるということだが、テーマに関しては、自分の整理では1つ目が「交流人口増加と定住人口増加に向けたその情報交流プラットフォームみたいなもの」。</p> <p>2つ目が一次産業のDX化をどのように支援していくか。</p> <p>そして3つ目が懇談会の今後をどうするかだったと思う。</p> <p>それに対して提言的なものも大体まとったのかなと思っていて、1つ目が佐渡版のDAOの中で交</p>

流入人口増加や定住人口増加に向けた情報交流をし、コミュニティを作つてそこで課題を解決し、一次産業DX化の相談窓口みたいなものもDAOの中で出来ていくような仕組みづくりがよいのかなと感じながら聞いていた。

ファシリテーターの課題については変わっていない。

それから短期と長期の住居対策をしていることについては引き続きプラスアップしていただき、最後に佐渡市アドバイザーにDXアドバイザーを創設していただくということである。

これは提言したら割りと簡単に実現するのではないかと思っている。

また次回もう1回挟むことになりますがよろしくお願ひしたい。

本日も活発な議論に感謝申し上げる。

## 5 閉会